



sponsored by **TOWNWORK**

ファイナリストインタビュー

Campus Life+1 に出て変わったこと

昨年度開催された「Campus Life+1 2018」において、約4万1千通の応募の中から見事選ばれたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1 を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。

アナリストとして母校を花園に！ 夢への階段を上り始めました

人前で夢をプレゼンしたことで
責任感が強くなった

盛り上がりを見せているラグビー。慶應義塾大学に通う久保さんは、幼い頃よりラグビーに魅せられ、今も現役選手として活躍している。そんな彼女の夢は、選手個人やチームの勝利に繋がる情報を分析するアナリストとして、将来母校を花園に導くこと。その夢を抱き、昨年のキャンパスライフ+1に出場し、見事ファイナリストに選出された。

「多くの人の前で、自分の夢を宣言したことで、責任がともなうようになりました。グランプリを受賞できませんでしたが、夢を追いかける決心が付

きましたね」

現在、学業に励みながら日本代表が使用しているコンディショニング管理システムをつくっている会社のインターンに参加。ラグビー案件の営業は同行までしている。さらに先日開催されたスポーツアナリストを養成するセミナーにも参加した。プレー中の撮影の仕方や専用ソフトを使って分析の方法を学んだ。

「他の競技でアナリストを目指す方や、すでにアナリストとして活躍している方の話が聞けて大変刺激を受けました。アナリストは自分の努力次第でなれるという話にも勇気付けられましたね。この経験を活かしてアナリストとして活躍したいです」



久保 光里さん(20歳)
慶應義塾大学

神奈川県出身。幼い頃よりラグビーを始め、過去には日本代表候補に選ばれたことも。前回のキャンパスライフ+1ではタウンワーク賞を受賞。

Campus Life+1 で得たもの

「ファイナル出場にあたり最初は不安ばかりでしたが、前日からプレゼンの練習をするうちにどんどん楽しみになっていって。当日も、ラグビー関係者以外の方に聞いてもらえたのがうれしかったですね。休憩時間に「よかったよ」と声をかけてもらったのも励みになりましたね」



先日参加したアナリストセミナーのときに撮影した写真。3日間、朝から晩までみっちり勉強したという。自分の高校生のときの試合の映像を分析した。数学が得意ではないので苦勞したそう。

応募資格

●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上ご応募ください) ●日本国内に在住している方。国籍は問いません。 ●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする) ●2020年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。 ●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

注意事項

●応募における個人情報は主催者及び関係会社のみ開示され、今回の企画以外に使用することはございません。●本人(チーム/団体)情報に誤りがある場合は、合格が取り消される場合があります。●可否や選考基準に関するお問合せにはお答えできません。ご了承ください。●選考通過者の方にはこちらからご連絡いたします。

ご応募はコチラから! 応募はWEBサイトで受け付けています。

右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。

みんなの夢を
随時更新

エンタク 検索 <http://entac.jp/>

応募期間: 2019年8月1日(木)~2020年2月2日(日)



主催: **EVAN!**
enjoy talking campus

協賛: **TOWNWORK**

学生コミュニティサロン「エンタク!」
お問い合わせ先: TEL052-241-8100
(受付時間/平日9:00~18:00)

RECRUIT